

大学教務実践研究会 教務課題検討フォーラム

主催：大学教務実践研究会、東海国立大学機構名古屋大学高等教育研究センター[質保証を担う中核教職員能力開発拠点]

2024年12月14日（土）10:30–16:30

現地参加（名古屋大学東山キャンパス共通教育棟A館）

オンライン参加

アーカイブ視聴



大学教務実践研究会と名古屋大学高等教育研究センターとは、教務の現場における事例を持ち寄り、それを整理した上で実践的な知識まで高めることを目的に、協働して活動しています。この教務課題検討フォーラムは、今日的な課題をとりあげ、ともに議論を深めていく場として設定しています。今年のフォーラムでは、第4期機関別認証評価、中央教育審議会高等教育の在り方に関する特別部会などの政策動向、法令が関係する教職課程業務、学生支援、大学院教務をテーマとする分科会を設定し、実践的な知識を共有します。

※本フォーラムには、以下の参加形態があります。お申込の際にお選びください。

現地参加（名古屋大学東山キャンパス全学教育棟A館）／リアルタイムオンライン参加／アーカイブ視聴

※本フォーラムの一部は、現地参加の方のみ対象の交流プログラムとなります。詳細は次頁をご覧ください。

分科会1（10:30～12:00〈10:00 受付開始 10:15 接続開始〉）＜対面・オンライン・アーカイブ＞

1 a) 第4期認証評価・法令改正・政策動向を踏まえた教務部門における対応

1 b) ケーススタディ（入学前の既修得単位の取扱い）

分科会2（13:15～14:45〈12:45 受付開始 13:00 接続開始〉）＜対面・オンライン・アーカイブ＞

2 a) 3つのポリシーとアセスメントプランの見直しに向けて

2 b) 事例で学ぶ教員免許事務（教育課程の変更届）

分科会3（15:00～16:30）＜対面＞

3 a) 窓口対応からはじめる教務職員の学修支援の「今」とこれから

3 b) 「教職支援」って何でしょう？

3 c) 自大学の大学院教務を客観視してみよう

お申込み：<https://kyoumujissen1214.peatix.com> からお申込み下さい。

※いただいた個人情報は、本企画運営の目的にのみ使用いたします。

※お一人ずつの参加申し込みをお願いいたします（複数購入はできません）。

申込期限：12月7日（土）

参加費：1名につき2,000円（名古屋大学・岐阜大学所属の方は無料）

・参加形態にかかわらず、録画対象部分のアーカイブ映像を後日ご視聴いただけます。

・支払い方法等詳細は、上記お申込みサイトに記載しております。

・本会はインボイスに対応しておりません。課税対象（消費税10%）です。

お問合せ：nagoya@kyoumujissenn.com（大学教務実践研究会）

分科会 1 ※現地参加／リアルタイム参加の場合、いずれか1つを選択していただきます。

1a) 第4期認証評価・法令改正・政策動向を踏まえた教務部門における対応

担当：宮林 常崇（東京都立大学）、大津 正知（茨城大学）

2025年度からはじまる第4期機関別認証評価、中教審高等教育の在り方に関する特別部会での議論、年度末に予定されている学校教育法施行規則改正などを踏まえて、教務部門が対応しておくべき事項を整理します。分科会の後半では内部質保証について、教務部門の職員は今後どのように向き合うべきかを考えます。

1b) ケーススタディ（入学前の既修得単位の取扱い）

担当：有馬 美耶子（白百合女子大学）

教職課程事務の中でも、特に難しいとされる『既修得の単位』の取扱いについて、教員養成を主たる目的とする学科等とそれ以外の学科の教職課程に分けて、実際の事例も交えながらそれぞれ基礎からかみくだいて解説します。

来年度の編転入受入に向けて、業務を円滑に進める手助けとなれば幸いです。

分科会 2 ※現地参加／リアルタイム参加の場合、いずれか1つを選択していただきます。

2a) 3つのポリシーとアセスメントプランの見直しに向けて

担当：竹中 喜一（近畿大学）

3つのポリシーや学習成果の評価方針であるアセスメントプランを作成したものの、学習成果の向上や説明責任の遂行への活用に課題をもつ大学も少なくありません。本分科会では、具体例の紹介や参加者間の情報共有も交えながら、それぞれの見直しのポイントについて考える機会にします。

2b) 事例で学ぶ教員免許事務（教育課程の変更届）

担当：小野 勝士（龍谷大学）

これから年度末にかけて多くの大学で作成する「教育課程の変更届」について、このような変更が生じる場合、届出が必要かどうか、また届出書類にどう記載するのか迷うことがあります。想定される具体的な変更事例を複数提示し、参加者の皆さんにどのように届出様式に落とし込むかを考えていただきます。

分科会 3 ※現地参加のみ。いずれか1つを選択していただきます。

3a) 窓口対応からはじめる教務職員の学修支援の「今」とこれから

担当：満田 清恵（中京大学）

教務の窓口には日々、様々な問い合わせが入り、その内容は多岐に渡ります。履修相談のようにルールの説明で終わる内容もあれば、背景に深刻な悩みを抱えていたり、心身の状態が不安定な学生がやってきたりすることもあります。そうした学生のシグナルに気づき、関係部署と協力して支援していくうえでの現状の課題を共有し、学修支援者としての教務職員の役割について皆さんと考える時間にしたいと思います。

3b) 「教職支援」って何でしょう？

担当：多畑 寿城（神戸女子大学・神戸女子短期大学）、徳丸 由紀（日本文理大学）

「支援」って最近特に見聞きしますよね。教職の世界でも「教職支援センター」等がよく目にします。でも、具体的に教職の世界での「支援」って何でしょう？皆さんそれぞれイメージできるでしょうが、具体的にどんな支援があるのでしょうか。一緒に教職支援探しをしてみませんか？意外な「支援」が見つかるかもしれませんよ。

3c) 自大学の大学院教務を客観視してみよう

担当：宮林 常崇（東京都立大学）、大津 正知（茨城大学）ほか

大学院教務を取り巻く課題について論点整理を行ったのち、参加者それぞれが大学院教務における実務上の課題を持ち寄り、グループに分かれて議論することで、それぞれの現場が抱える課題に取り組むための手がかりとします（所要時間 30分程度の事前課題あり／9月14日開催「大学院教務の現在地」と内容が一部重複します）。